



syoun



2017 March

No.535

地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

教育と喫煙

～未来の子どもたちの 育成のために～



平成 25 年まで人吉医療センター循環器内科で勤務
させていただいていた名幸と申します。3月12日に「教
育と喫煙 ～未来の子どもたちの育成のために～」と
題した講演会を開催致しましたので報告致します。

タバコ煙には 70 種類以上の発がん物質、5300 種以
上の化学物質が含まれており、「がん」だけでなく、
脳卒中や心臓病など多くの疾患に関与しています。厚
生労働省は日本で年間 13 万人もの生命がタバコによ
り失われていると報告しています。また、他人の吸う
タバコ煙による「受動喫煙」の健康被害も深刻で、日
本での犠牲者は年間 1 万 5 千人と報告されています。

タバコの健康被害は年少者ほど大きく、身体・精神

面での成長にも影響するため、未成年者のタバコ対策
は喫緊の課題ですが、日本においては大きく遅れてい
ます。未成年の常習喫煙者の多くは「ニコチン依存症」
で、「やめたくてもやめることができない」病的な状
態に陥っており、適切な治療なしには禁煙が困難で
すが、謹慎・停学といった「罰」のみ与えられるのが現
状です。また、未成年者は興味本位でタバコを吸い始
めることが多いため、その予防には周りの大人もタバ
コを吸わない模範的な態度を示す「環境作り」が大切
であり、昨今、学校内は運動場などの屋外も含めた「敷
地内禁煙」が求められているのは「タバコの無い環境」
が子どもたちの健康に有益であるからです。熊本県内
においても学校は敷地内禁煙が一般的となっております
が、残念ながら球磨郡では敷地内禁煙を実施してい
る学校は一校もなく、子どもたちがタバコから守られ
ていない数少ない地域のひとつとなっています。

この度の講演会は現状を打破すべく、地域の皆様の
お力添えをいただこうと開催させていただきました。
この場をお借りし、ご参加いただいた多くの方、開催
にご尽力いただいた人吉医療センターの方々に御礼を
申し上げます。球磨地区の子どもたちの健康のため、
学校の敷地内禁煙が進むことを祈念しております。

山鹿市民医療センター 循環器内科

くまもと禁煙推進フォーラム 名幸 久仁

糖尿病認定ナース 地域へ発信

ーみんなで糖尿病患者をへらそうー

2015年現在、厚生労働省の「患者調査」によると、糖尿病の患者数は316万6,000人となり、前回（2011年）調査の270万から46万6,000人増えて、過去最高となっています。また、平成25年度の国民医療費は40兆610億円で、前年度の39兆2,117億円に比べ8,493億円、2.2%の増加30万7,500円に比べ2.3%増加しており、このうち糖尿病の医療費は1兆2,076億円とされています。そして、人吉・球磨は全国的にも糖尿病患者が多いと言われています。糖尿病が進行すると、合併症を併発し、ADLの低下だけではなく、QOLまでも低下させてしまいます。しかし、糖尿病は慢性の疾患であり、患者は一生をかけてコントロールしなければなりません。そのため、患者・家族の苦悩は多大なものと予測され、私たち医療者は患者のその苦悩を理解し、個々にあった指導を行う必要があります。

今回、人吉・球磨の保健指導に関わる保健師を対象に、糖尿病発症・進行予防を目的として、「糖尿病を知って患者の病みを理解する～患者を知って指導に活かす～」というテーマで講義を行ってきました。講義では病態や治



療だけでなく、糖尿病看護で重要となる血糖パターンマネジメントを参加型教室に切り替え、実際の事例をもとに理解してもらいました。さらに、指導に関する講義行い、演習の中で、これまで関わった困難事例を通して、指導の振り返りと、どうすれば良かったのかを一緒に考えました。90分という限られた時間でしたが、演習を取り入れたことで理解が深まり、テーマに合った内容の講義を行うことができました。これからの保健指導に活かして頂き、人吉・球磨の糖尿病患者数が減少できるよう、連携体制を強化し一緒に頑張っていきたいと考えます。

5階西病棟 糖尿病認定看護師 根笹 真由美

第18回 熊本県南フットケア研究会（人吉）参加

3月7日（火）に熊本実践フットケア研究会が主催する「第18回 熊本県南フットケア研究会（人吉）」が開催されました。

人吉では年に1回、毎年3月に開催されており、フットケアに関する各領域先生方の講演とフットケアのトピックスや実践コーナーが設けられています。

一昨年は「皮膚科領域」、昨年は「歩行評価含めたりハビリ領域」、今年は「循環器内科領域から血管内治療と透析患者の末梢血管疾患の血流評価のための動脈触知方法、ドプラ聴音、ABPI、SPP体験」があり、ふだん動脈触知やドプラを使用したことない看護師やコメディカルも実践・体験し、感嘆の声を上げながらも、質問しやすく明るく楽しいセミナーとなりました。

昨年までは、当院からは医師・看護師各1名の参加でしたが、今回は医師1名、看護師4名、コメディカル1名の参加があり、フットケアへの関心が高まっていることを感じました。



九州地区のみならず熊本県内でもフットケアに関する講演会やセミナーも年々増加しており、遠くへ行かなくても学べる機会が増えてきております。フットケアに関する情報を発信していきますので、お気軽にご参加ください。

外科外来 看護師 愛甲 宣代

今回、熊本県南実践フットケア研究会に参加させてもらいました。

下肢創傷の早期発見をおこなうために、講義と実技がありました。

最近PDA（末梢動脈疾患）患者の下肢創傷患者が多く当院にも入院してきています。

血流障害により創傷の改善が見込めなくなってしまう場合には切断するしかありません。切断した患者の5年生存率は50%、早期に介入できれば切断術の90%は回避可能ということでした。

切断回避するには、足を見ることや痺れや歩行時疼痛などの症状の観察、ABIやSPPなどの検査で血行状態や血管の動脈硬化の評価をし、さらにEVT（血管内治療）をすることで切断回避できるという内容でした。

また、ABI・SPP・簡易ドップラーの体験学習があり、動脈の硬さや血流のスクリーニングから創傷治癒可能かの判断ができることを知りました。

この研修を活かし、足をみる習慣をつけPADの早期発見に努めていきたいと思いました。

6階病棟看護師 平富 孝美

看護部長挨拶

平成26年4月1日より平成29年3月31日まで、人吉医療センターでお世話になりました。前病院の看護部長からの出向依頼に“私のような者でよければ人吉に行ってみたいです”と返事をしたものの、本部での面接で“人吉の病院には優秀な人材がたくさんいます！”と言われ、少し迷いながら熊本に帰ったことを思い出します。しかし、総務企画課の黒木美佐さんからの“気楽な気持ちで来てください。”の電話にほっとして訪問すると、看護研修センターと一緒に研修した告吉副部長・渡辺師長・溝口師長のお顔があり本当に心強かったです。

特に忘れられない出来事は、処置室から“患者さんを2時間以上待たせているから応援をお願いします”と電話があった時のことです。急いで処置室に行くと“もう20分以上お待たせしていますから”と言われ、“えっ2時間ではなく20分？”と耳を疑ったのです。これまで外来待ち時間といえば、予約で3時間、予約なしだと5時間ほどかかるのが日常でしたので、この対応から外来待ち時間の捉え方も変わりました。また、救急外来では急患が運ばれると医師、看護師に加え検査技師、放射線科技師、MSW、クラークが協力し、できるだけ早く診察や検査を行い、手術やICU入室ができることに驚きました。“ずいぶん前からコメディカル連携は取れていた”と聞いていましたがチーム力のある病院だと感じた瞬間

でした。

病棟師長の時は看護実践する機会が少なくなり問題があるときだけ対応することに不満を感じたこともありましたが、ここ人吉では救急や処置室からリリーフの連絡があり直接看護を実践する場面も多くありました。しかし現実には厳しく、各種提出物の作成や問題発生時の対応、勤務の調整や夜勤時間の管理など同時進行に行わなければならない、自分の知識不足、判断力のなさに師長さん達の力を借りてばかりでした。看護部としての取り組み成果の一つは出さないといけないという思いがありましたが、地域包括ケア病棟や訪問看護ステーションの開設、認定看護師や特定行為の研修の準備などまだまだたくさんの課題が残ってしまいました。この3年間、目先の問題に追われ未熟な管理しかできなかったことが悔やまれます。

看護者としての成長だけでなく管理者としてももっと頑張らなければと言いつつも、人吉医療センターでの経験を無駄にしないように看護管理の学習と実践を積んでいきたいと思っています。特にみなさんの情報量の多さと行動力の速さはこれからも見習っていきたいと思います。

最後に、院長先生はじめ、人吉医療センターのすべての方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。



看護部長
井手 美智子

健康的な食事管理

～2月27日ひまわり会(乳がん患者会)開催～

今回は、「健康的な食事管理」をテーマに北川栄養士の講義を受けた後、ランチタイムに実際に健康的な献立のお弁当を食べて頂きました。

肥満状態だった人の乳がん再発リスクは高くなると言われていることから、食事の内容や食習慣は、生活習慣病予防と同様に脂質、糖質を取り過ぎず、塩分は控えめにという説明に皆さん頷き、メモを取りながら非常に熱心に栄養士の説明を聞かれていました。

乳がんの患者さんの大多数が女性で、実際に毎日調理に携わる方が多いため、皆さん食に関する関心は高く、調理



方法などを質問をされるだけでなく、患者さん同士がお互いに情報交換し、女性ならではの賑やかな会となりました。

ひまわり会に参加していただいた方の中から、「再発の不安や日常生活のつらさはあるけれど、同じ病気の方と他愛もない話をするだけで心が軽くなる。」という感想をいただき、病気に対する知識を学ぶ場を提供することと同様に患者さんが集える場所を作ることの必要性を改めて実感いたしました。

平成29年度のひまわり会の日程も決まりましたので、まだ参加されたことがない方は是非ご参加下さい。

日 時	テ ー マ
4月24日 13:30-	乳がんの治療について
6月26日 13:30-	乳がんになって思ったこと感じたこと
8月28日 13:30-	口腔ケア
10月23日 13:30-	アロマハンドマッサージ
12月25日 13:30-	骨をつよくするための運動
2月26日 11:30-	骨をつよくするための食事

詳しくは、医療福祉連携室TEL 22-2191（内線：240）までご連絡ください。

医療福祉連携室 社会福祉士 岡本 理恵

病院を見守る「ホスピタルツリー(もちの樹)」

当院、正面玄関横にあるモチノキは、明治11年に人吉・球磨住人の寄附によって、当院の記念樹として植えられ、それから、約140年余の歴史をこの病院とともに歩んでいます。

病院の建て替えの際に、3年間別の土地に移植し工事終了後に現在の場所に移植されました。その時、移植の成功率は50%でしたが、病院建替え後、約3年となりますが、今も見事に力強く生命をつないでくれています。

当院は、これからもこの木とともに、将来にわたり地域と地域住民の健康を守り続ける思いを込め「ホスピタルツリー」としました。

もし機会がございましたら、是非一度ご覧になられてはいかがでしょうか。

医療福祉連携室 社会福祉士 小田 薫子



研修医挨拶



赴任するまでは少し遠いと思っていた人吉・球磨ですが、いまでは親しみを感じる土地になりました。2年前、知り合いはひとりもいなかったのに、3月になって異動を告げると「また遊びにきてね」とたくさん声をかけていただきました。もちろん「また来たい!」と思いますし、実は「また住みたい!」と夢みております。それほどまでに、2年間で出会った患者さん、スタッフの皆さんにはとても親切にしてください、多くのことを教えていただいたのです。私自身、生来少し生意気でかなり頑固な部分があります。そんな私も、皆さんに見守られ、育てられ、おかげさまでほんの少しは成長できたような気がします。今後も研鑽を続け、少しはお役に立てるようになったら、この病院の皆さんとまた一緒にお仕事をさせていただきたいです。それまで、みなさんのご健康とご多幸をお祈りしております。2年間ありがとうございました。さようなら。

臨床研修医 神戸 あゆみ



昨年の7月から今年の3月の9ヶ月間大変お世話になりました。昨年の熊本地震のため熊本市民病院での研修継続困難となり人吉医療センターで研修を継続させていただき、そして無事に修了することができました。

昨年6月に見学に伺った際、院長先生が、緊張気味の私に「来月からよろしくな」と快く研修継続を受け入れて下さいました。また、その足で事務の西山さんに研修医ルームへ連れて行ってもらい1年目、2年目の研修医の先生方とお会いし、とても暖かく受け入れてくれたことをこのあいだのこのように今でも鮮明に覚えています。

研修中は多くの診療科を回り、救急外来の当直をこなしながらたくさん経験をさせていただきました。周りの研修医が上手にこなしていく中、成長の遅い自分に苛立ちを覚えるような時期もありました。周りの方に支えられ教えて頂いたおかげで何とか成長することができました。

4月からは麻酔科医として新たな一歩を踏み出します。またいつの日か育てて頂いた恩返しができるよう、ここで学んだことを糧としてしっかりと成長していくつもりです。9ヶ月間本当にありがとうございました。

臨床研修医 石原 旭



平成27年4月より人吉医療センターで医師の仕事が始まりました。全く何もわからない状態で救急外来(ER)や病棟で右往左往していた私を温かく見守り、また厳しくご指導いただいた先生方、スタッフの皆様には心から感謝申し上げます。無事に2年間の研修を終えることができたのは皆さんの支えがあったからこそと思っています。

また学会発表、外科手技研修などに参加させていただきました。発表や実技研修では緊張で自分が何をしているのかわからなくなることもありましたがいい経験になりました。

4月から消化器外科医として新たな環境で働き始めることになります。人吉での経験を生かし外科医として成長できるように精進して参ります。今後、人吉勤務になることもあると思います。その際は温かく見守り、また厳しくご指導いただきますようよろしくお願いいたします。長いようで短い期間ではありましたが大変お世話になりました。ありがとうございました。

臨床研修医 堀之内 誠



1月から3月までのわずかな間の研修でした。ありがとうございました。

人吉医療センターでの研修は麻酔科、外科を回りながら救急外来当番に入るという形で臨床の経験を積ませていただきました。自分自身研修前と比べて成長を感じます。しかし、それと同時に数多くの場面で自身の力不足を感じる研修でもありました。診察するにしても、方針を立てるにしても、医師としてまだまだ自分がおりました。このように未熟な私に数多くの症例を経験する場を与えてくださったこと、みなさんにとっても感謝しております。

4月からは熊本大学での臨床研修が始まります。人吉で学んだことをしっかりと持ち帰り、より良き医療人になれるよう励みたいと思います。

みなさん本当にありがとうございました。

熊本大学 臨床研修医 岡崎 孝広

推進リーダー研修会が開催されました

日本理学療法士協会では、『地域包括ケアシステム』を推進するにあたり、「地域ケア会議」「介護予防」の2つの施策に重点を置き、地域包括ケアシステムに関わることでできる人材の育成を始めています。そのための育成制度として、【地域包括ケア推進リーダー】、【介護予防推進リーダー】の2つの認証コースを設定し3月4日と5日に人吉医療センターで開催されました。参加者は4日23名 5日25名でした。

4日：介護予防推進リーダー導入研修会

理学療法士が今後介護予防事業を展開していく中で行政・住民へどのように説明していく必要があるのかを実技やグループワークを通して学びました。

日本理学療法士協会が作成した行政向け・住民向けの冊子を利用し介護予防事業の実践方法や地域の福祉計画から介護予防事業の企画立案方法を学び、理学療法士としての専門性を活かし効果的で魅力的な事業が行えるようになるための研修会でした。

5日：地域包括ケア推進リーダー導入研修会

地域包括ケアシステムとは何か、理学療法士が地域ケア会議にどのような役割で求められているのかを学びました。事例や模擬会議を通して地域ケア会議の実際と心構え、限られた情報の中で予後予測や課題抽出を行うためにはどのようにすればよいのかなどを学ぶ研修会でした。

リハビリテーションセンター 塚島 靖博

特別臨床実習感想 — 消化器外科 —



今回 1/30 ～ 2/3、熊本大学消化器外科の実習で人吉医療センターを見学させて頂きました。一週間という短い期間でしたが大変充実した実習となりました。

外科の手術に入らせて頂き、ストーマの閉鎖術や直腸脱のデロルメ、鼠径ヘルニアなど、普段大学病院では見られない症例を多く経験することができ、大変勉強になりました。大学病院とは違い、人吉医療センターでは消化器外科の先生が乳腺や甲状腺、肺など消化器以外の臓器も手術しています。自分も将来、先生方のように専門以外の臓器も治療できる医師になりたいと思います。

また、手術以外の時間は救急外来や入院患者さんの診察、回診、Web seminar などを行いました。

救急外来では研修医 1 年目の先生方が積極的に患者さ

んの診断・治療に携わっていたのがとても印象に残りました。二次救急医療機関である人吉医療センターは、地域医療の拠点でもあり多くの患者さんが来られています。救急外来で多くの症例を経験できることも人吉医療センターの魅力であると感じました。

入院患者さんの診察では、研修医の先生と一緒に病棟を回らせて頂きました。研修医の先生に丁寧に指導して頂きながら、実際に診察を行うことができ、非常に貴重な時間となりました。

木村院長、外科の先生方、総務企画課の方々をはじめとして、人吉医療センターのスタッフの皆様にご協力いただきありがとうございました。

熊本大学医学部医学科 5 年 光井 大



私は 2 月 20 日から 2 月 24 日までの 5 日間、人吉医療センターで消化器外科の学外実習をさせて頂きました。人吉医療センターを選んだ理由は、自分が熊本大学地域枠入学の義務年限である 9 年間に熊本市外で働くという決まりがあること、自分が将来外科をめざしていること、熊本県の熊本市外で人吉医療センターが外科を頑張っていると勧められたことで、前々から興味を持っていたのでいい機会だと思ったからです。

今回、私は実習中いろいろなことをさせて頂きました。開腹、閉腹、ドレーン挿入、中でも一番勉強になったのはラパロのカメラ持ちです。ここでする前はカメラの仕組みがよくわからなかったのが、先生方に教えてい

ただき何とかわかるようになりました。ここで学んだおかげで三週目のラパロの手術でカメラ持ちをしたとき、その復習にもなったし、より手術の内容が頭に入ってきました。

また一番は何といっても温泉でした。自分は宿泊させて頂いた 4 日間すべて温泉にはいらさせて頂きました。ほかにも食べ物がすごくおいしくて特に肉が絶品でした。実習もプライベートも両方満喫させて頂きました。また改めて人吉医療センターは病院見学に行かせていただこうと思います。本当にありがとうございました。

熊本大学医学部医学科 5 年 松岡 隼平

連携施設探訪 「E-life」介護予防特化型デイサービス Vol.3

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域 包括ケアを推進していきたいと考えています。

そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は「E-life」さんです。

【施設の特徴】

シニアの健康をサポートするフィットネスジムのようなデイサービスです。

運動器の機能回復に特化し、充実した運動機器とプログラムにより、介護予防における目標設定に対し、明確な運動を則し、厚生労働省老健局が指針として示す課題・目標に対し、その対策をわかりやすく提供することを目的としています。

【サービス内容】

準備体操・ストレッチ、個別トレーニング・リラクゼーション、整理体操、健康チェック、スプリングセラピー(※)、マシントレーニング、リラクゼーション(運動で起こる、凝りや足のむくみを軽減し、血液リンパの流れを活性化するマッサージ)など。

※スプリングロープ[つりひも]の特性を活かし、個々の状態に合わせたストレッチングや筋力向上を行う運動療法。

【スタッフ数】

機能訓練指導員 1 名、スタッフ 2 名、相談員 1 名

【地域の皆様に一言】

地域の拠点として 1 人でも多くの方が、自分らしい生活を送るために社会的なサポートを行っていきます。

詳しい内容をお聞きになりたい方は下記までご連絡ください。

【問い合わせ先】 E-life Tel: 0966-22-1166
(担当者 山下雅也)



上：担当の山下さん、下：施設内の様子

インフルエンザ感染症 ～みんなで取り組む感染対策～

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原微生物とする感染症で、病院においては集団感染に注意しなければならない感染症の1つです。

毎年11月下旬～12月上旬に発生が始まり、翌年の1～3月に増加、4～5月にかけて減少していくというパターンをとります。

このようにインフルエンザは流行が予測できる感染症であることから、流行期前に対策の周知をすることができます。

当院では、インフルエンザ感染対策として流行期の11月から3月まで、本館棟エレベータ前のドアを常時施錠し面会時のマスク着用をお願いしています。

また、マスクの着用以外にも感染防止のため、以下3点（通

年）をお願いしております。

1. 体調の悪い方（下痢・嘔吐・発熱のある方）・小学生以下のお子様・大勢でのご面会はお控え頂くこと。
2. 面会者の方は、来院の際とお帰りの時に手の消毒を実施していただくこと。
3. 入院中の患者さんに、許可なく食物（特に、生もの）、生花のお見舞いをされることをお控え頂くこと。

私たちは、統一した感染対策を実施し患者さんを守り、また自分自身を守るよう努めております。

インフルエンザの流行期間中は、入院患者さんをはじめ、ご家族・ご面会の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしましたが、当院の感染対策にご協力いただきありがとうございますございました。

感染管理室 感染管理認定看護師 別府 るみ

【院内の不在者投票について】

入院患者さんが病院で不在者投票できることをご存知でしょうか。不在者投票制度とは、入院治療中などのため、投票所に行くことが困難な場合に、投票日前に指定施設で投票が出来る制度です。当院も不在者投票の許可を受けた指定施設であり、入院患者さん対象の不在者投票を行っています。

2月の多良木町選挙の際には、2名の入院患者さんがそれぞれの思いを一票に託して投票されました。4月の相良村議会議員選挙でも、不在者投票を実施する予定です。

選挙権は、これからの代表者を選び、私たちの意見を政治に反映させる大切な権利です。入院中もその一票が行使できるように、当院では選挙事務を公正に行っていきます。

第14回ひとよし春風マラソン

2月19日、「第14回ひとよし春風マラソン」が開催され、救護ボランティアとして看護師22名で初参加しました。マラソンはスポーツの中でも心肺停止になる危険性が高いと言われています。一番の任務は救命ですが、突発的な内因性の疾患や外傷から、靴ズレにまで対応できるように、事前に研修会を行い臨みました。当日は天気にも恵まれ、幸いにも重症例はなく終了しました。一番多かったのはやはり足のトラブルで、傷パワーパッドやコールドスプレーが良く出ました。救護活動を終え本会場へ戻ると、レースを終えたランナーに「ありがとう」「お世話になりました」とたくさん声をかけて頂き、当院の理念でもある「全人医療」に叶う活動ができたことと確信できました。



新 任 紹 介



白川 あゆみ（5階病棟・看護師）

最終卒業校：国立病院九州医療センター附属福岡看護助産学校

趣味：山登り、旅行、テニス

生活信条・モットー：大きな声であいさつをする

自分のコマーシャル：新たな場所で気を引き締めて頑張りたいと思っています。慣れないこともたくさんあると思いますが、よろしくお願いします。

3月のフレッシュマンセミナー報告

- 3/9 桑原 翔子「31アイスクリームについて」
- 3/16 平岡 丈英「古墳時代の木棺から見る階層性」
- 3/23 木村麻理恵「犬について」
- 3/30 高岡 大記「タイ旅行について」

3月の勉強会報告

3月8日(水)「温熱療法(ハイパーサーミア)について」

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 がん治療センター センター長 今田 肇先生

3月9日(木) 第29回消化器カンファレンス

「当院で治療を行った大腸Ⅱcの一例」
当院 消化器内科 西村 淳先生
「肝嚢胞性疾患に対する治療マネージメントについて」
当院 外科部長 杉山 眞一先生

3月16日(木) 九州・沖縄地区innovation WEBセミナー ～日常診療に役立つ漢方(第2回)～

「病院勤務医に知ってほしい漢方Evidence PART2」
広島大学大学院医歯薬保健学研究院 漢方診療学 教授 飯塚 徳男先生

3月31日(金) 第12回Cancer Net研究会

「熊本県「私のカルテ」運用に関するアンケート結果と「私のノート」のご案内」
当院 がん相談支援センター
がん専門相談員・ソーシャルワーカー 南 秀明さん
「大腸癌の予防・治療・ケアについて」
社会医療法人高野会 大腸肛門病センター高野病院
消化器外科部長・地域医療連携部長 佐伯 泰慎先生